6 最近のカンキツ品種の動向

既存品種の現状

県下で栽培されているカンキツは温州ミカンを中心に、ハッサク、イヨカン、アマナツ、淡路島特産の「ナルト」等である。

温州ミカンは県下で淡路地域を中心に336ha（2000年）栽培されている。生産者の高齢化と生産過剰基調により栽培面積は減少傾向にある。

中晩生カンキツでは、ハッサク、アマナツ等の旧来品種は減少傾向にあるが、近年淡路地域において導入されてきた「不知火」は外観が個性的であり良食味で食べやすいことから、栽培面積が拡大してきた。

今後の有望品種

農林水産省果樹試験場（現、独立行政法人農業技術研究機構果樹研究所）で育成され有望として注目されている中晩生カンキツ品種の特性と淡路農業技術センターにおける品質調査成績について紹介する。

1 天草（あまくさ）

1995年登録品種で、交配親は（「清見」・「興津早生」№14）×「ページ」である。樹勢は中程度で、かいよう病にやや弱い。熟期は12月下旬から1月下旬である。果実重は200ｇ程度、果形は扁球、果皮色は濃橙で、外観が優れている。はく皮性はやや難である。オレンジ香があり食味は良い。果実品質は12月下旬で糖度12.8、酸含量1.33％であった。

2 はるみ

1999年に品種登録され、交配親は「清見」×「ポンカンＦ－2432」で、「不知火」の姉妹品種である。樹勢は中程度で、隔年結果性が強い。熟期は1月である。果実重は190ｇ程度、果形は扁球、果皮色は橙で、はく皮性が良い。ポンカン香があり食味の評価は高い。根域制限栽培では1月中旬で糖度13.0、酸含量1.41％であった。

3 西之香（にしのかおり）

2000年登録品種で、交配親は「清見」×「トロビタオレンジ」である。樹勢は中～弱、かいよう病にやや弱い。熟期は12月下旬～1月上旬である。果実は150ｇ程度で、果形は腰高の扁球から球形である。果皮は橙～濃橙色で薄く、はく皮性は中～容易、果面は平滑である。中位のオレンジ香がある。果実品質は12月下旬で糖度12.1、酸含量0.88％であった。

今後の方針

今回紹介した品種は淡路地域で有望であると考えられた。その他、「あまか」、「せとか」等が有望として注目されているが、現在当センターでは未結実であるため、今後新規品種を含め特性調査を続ける予定である。

斎藤　隆雄（淡路農技・農業部）

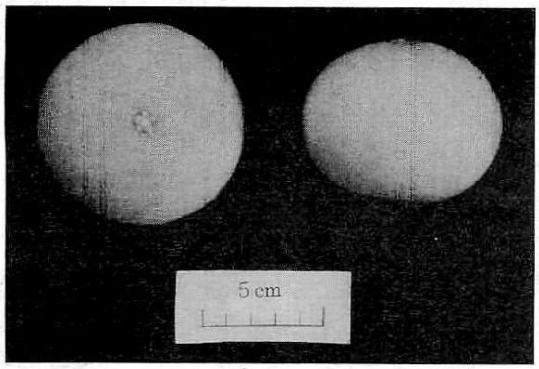

図1　「天草」

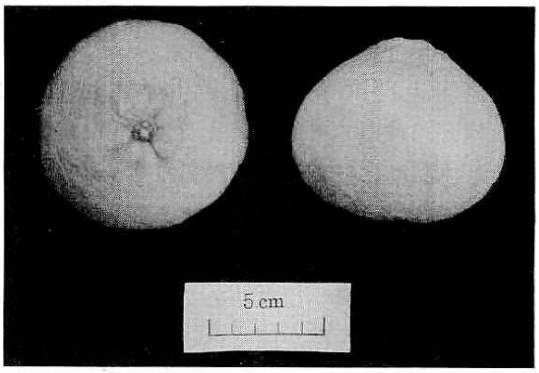

図2　「はるみ」

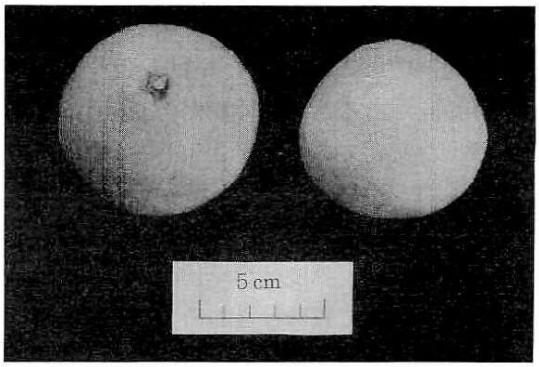

図3　「西之香」